

動画解説まとめ 12 / 学び方・考え方

AI課金と使い方を見直す5つの視点

あべさんがAIへの課金経験から語った5つの学びを整理。自己分析、経験を生かした制作、利用量と性能の違い、相談のしすぎを見直す考え方をまとめました。

この動画の要点

あべさんがAIへ累計340万円を使ったとする経験から、使い方と費用の考え方を振り返る回です。中心は、AIに自分の経験や実務データを伝えて強みを見つけ、実践すること。高額な課金だけで独自性や良い成果が生まれるわけではないと話しています。同じ相談を複数のAIに繰り返すことと、回答の根拠を確認することを区別し、試す経験を得ながら使い方を絞るという考えを紹介しています。

01 自己分析では、人としての経験に加えて、実際の活動データも材料になる。

02 AIに自分の経験を渡すと、一般論だけではない内容を作る材料になる。

03 課金額が増える理由は、モデルの違いだけでなく利用量にもある。

04 同じ相談を何度も別のAIに投げることと、情報の根拠を確認することは分ける。

05 有料の機能を試す価値と、必要以上に費用を使わないことを両方考える。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：生成AIに340万円使って分かったこと5選

<https://www.youtube.com/watch?v=68rN99uEs6I>

1. 自己分析に、自分の活動データを使う

動画の該当箇所 2:15 / タップして開く

あべさんは、文章制作から3Dモデルづくりまでさまざまな用途を試したうえで、自分にとって特に価値があった使い方は自己分析だと話しています。同じAIを使えても、使う人の経験や活動によって生かし方は変わるため、まず自分の強みを引き出すという考え方です。

この動画自体が例になっています。チャンネルのコメントを分析したところ、課金に関する質問が多いと分かり、自身の領収書を集計すると累計の支出が見えた。その2つを合わせて、視聴者が知りたいことと本人の経験が重なる動画企画にした、と説明しています。数値はあべさんが動画内で報告した分析結果です。

SNSなら投稿への反応や視聴者層、物販なら仕入れと販売の数字など、すでに取り組んでいる活動には材料があります。それをAIに分析させ、自分にとって有利になる行動の案を出してもらい、その中から1つを選んで実践するという流れが示されています。

- ・ 自分の経験や得意なことをAIへ伝え、強みの候補を整理する。
- ・ 実際の投稿・反応・販売などのデータも、活動を振り返る材料にする。
- ・ 分析結果だけで止まらず、提案から1つ選んで実践する。
- ・ 書籍の穴埋めプロンプトも紹介されるが、本文は字幕に出ていないため、この資料には再録していない。

2. 自分の経験を、AIが作る内容に加える

動画の該当箇所 5:56 / タップして開く

次の論点は、課金を増やしても、本人の経験を渡さなければ内容が一般論になりやすいということです。例として『副業を始めるべき理由』の記事を、テーマだけ伝えてAIに丸投げする場面を挙げています。形の整った文章は作れても、誰が書いても似た内容になるという指摘です。

あべさんの場合は、高校生の頃から副業を続けて本業になった経験や、海外で暮らした経験などを加えられます。それは本人にしか語れない材料であり、読んだ人がその書き手に関心を持つ理由になると説明しています。特別な成功談だけを加えるという話ではなく、使い手側にある経験を制作の材料にするという考え方です。

期待する内容が出ないときに、追加課金だけで解決しようとせず、自分がどんな経験や情報を渡せるのかを振り返る。その振り返り自体にAIを使うことも勧められています。課金額が大きければ本人の経験まで補えるわけではない、という点がこの節の中心です。

- ・ テーマだけの依頼で出た内容に、本人の経験や具体例が入っているかを見る。
- ・ 自分が実際に経験したことを伝え、制作に生かす。
- ・ 経験を思い出し整理する相談にも、AIを使える。

3. モデルの性能と、使える量を分けて考える

動画の該当箇所 9:44 / タップして開く

あべさんは、料金が高いほどAIそのものが際限なく賢くなるわけではない、と話しています。動画では、無料プラン、有料の月額プラン、さらに利用量を増やすプランや従量課金を分け、同じモデルを長く使うために費用が増える場合があると説明しています。

自身が大きな金額を使った理由の1つは、利用上限に達したときに待たず、追加のクレジットを使って作業を続けたことだったと振り返っています。『追加で払うから、もっと賢い答えを』と頼んでも、支払いだけでモデルの能力が変わるわけではなかったという経験談です。

この回で挙がる月額20ドル、200ドルなどの金額は、撮影時の説明です。すべてのサービスで現在も同じモデルを使えるという意味には置き換えられません。資料として押さえる論点は、必要なのが別の機能・モデルなのか、同じモデルを使える量なのかを区別することです。

- ・ 高い支払いの理由が、性能差なのか利用量なのかを分ける。
- ・ 上限に達したら、待つことと追加で支払うことを別の選択肢として考える。
- ・ 動画内の金額やプラン比較を、現在の料金表として扱わない。

4. 同じ相談を繰り返す時間と費用を見直す

動画の該当箇所 12:21 / タップして開く

あべさんは、同じ質問を複数のAIに繰り返していた行動を『AIセカンドオピニオン』と呼び、自分には無駄が多かったと振り返っています。似た答えが返っているのに、もっと良い方法や安い方法があるはずだと思って相談を増やしていた、という話です。複数の有料サービスを契約していたため、毎月の支出も大きくなっていました。

ただし、1つのAIの回答をそのまま信じればよいという結論ではありません。まとめの場面では、事実確認を頼む、一次情報を付けて説明してもらう、といった確認は良い使い方だと補足しています。相談先を増やすことと、回答の根拠を確かめることを区別しています。

AI同士の比較が仕事になる発信者と、普段の相談をしたい人では必要な使い方が違います。比較そのものが目的になっていないか、似た答えが出ているのに決められず繰り返していないかを見直す、という本人の反省として読むことができます。

- ・ 同じ相談を別のAIへ繰り返している場合は、判断が前に進んでいるかを見る。
- ・ 回答の確認には、根拠や一次情報を示してもらう方法が挙げられている。
- ・ 比較が必要な仕事と、日常の相談に必要な契約は分けて考える。

5. 試す経験の価値と、費用の使いすぎを分ける

動画の該当箇所 15:18 / タップして開く

最後にあべさんは、支出には無駄もあったが、AIで何ができて何ができないかを経験したこと自体は価値があったと話しています。だから、費用を使いすぎた反省と、有料の機能を一度も試さないことは別の話だという立場です。

『無料プランの人は340万円以上損している』という強い表現も登場しますが、本人が個人的な意見だと明言しています。無料で使う人の実際の損失を計算した結果ではなく、自分なら無料だけで過ごすより経験を得た方を選ぶ、という価値観の表現です。視聴者にも同じ金額を支払うよう勧めているわけではありません。

むしろ、本人は通常の使い方なら1つの有料プランで試し、上限に達したら待てばよかったと振り返っています。必要な機能を経験することと、待ち時間をなくすために費用を積み上げることを分ける、というのがこの回の締めくくりです。

- ・ 使って分かったこと、試して初めて判断できたことに価値があったという経験談。
- ・ 340万円は本人が報告する累計支出であり、必要予算や推奨額ではない。
- ・ 利用上限を待つ選択も含め、使い方に合う範囲で考える。

実践の進め方

01 自分の活動を振り返る

自分の経験と、投稿への反応や販売の数字など、今ある活動の材料を整理してAIに分析を頼む。

動画 5:03

02 次の行動を1つ選ぶ

自分の活動や強みを踏まえた案を出してもらい、その中から1つを選んで実践する。

動画 5:25

03 本人の経験を制作に加える

記事などの制作では、テーマだけを伝えるのではなく、自分が実際に経験した内容を渡す。

動画 7:55

04 相談の重複と根拠確認を分ける

同じ相談を複数のAIへ繰り返す行動を見直す一方、回答の根拠や一次情報は確認する。

動画 19:52

05 必要な利用量に合わせる

本人の振り返りでは、通常利用なら契約を絞り、上限に達したときは待つという選択が挙げられている。

動画 18:05

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例・動画の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めるようにしてください。まず、AIで行っている作業、自分の経験、活動データの有無、契約中のサービス、利用上限で実際に困る場面を質問してください。その回答をもとに、自分の経験をもっと生かす方法と、相談を繰り返している部分を整理してください。最後に、今ある材料で試す行動を1つ選ぶのを手伝ってください。動画内の料金を現在のものとみなさず、契約変更を提案する場合は現行情報の確認が必要と区別してください。『無料利用者は340万円損している』を客観的な損失額として扱わないでください。

資料について

- ・ YouTube自動字幕をもとに編集した要約です。字幕の『5000』は、前後の説明に基づき『5選』として整理しています。
- ・ 課金額・コメント件数・分析結果は、あべさんが動画内で報告した数値です。本資料による請求書や元データの独立検証は行っていません。
- ・ 料金・プラン・利用上限については動画時点の説明です。現行の全サービスを比較した契約案内ではありません。
- ・ 有料利用の価値や『340万円以上損』という表現は本人の経験と意見であり、支出の推奨額、実損額、収益の保証ではありません。